令和５年11月６日

府中市議会議長
手塚　としひさ　様

府中市議会　市政会
会長　横田　　実

行政視察報告書

行政視察を実施しましたので、以下の通り報告いたします。

１．日　時　　令和５年１０月１１日（水）　～　令和５年１０月１３日（金）

２．視察地及び調査事項

A.　１０月１１日（水）北海道　旭川市　「地域歩行空間等整備事業費について」

B.　１０月１２日（木）
　北海道　砂川市　「スイートロードと商工振興の取組みについて」

C.　１０月１３日（金）北海道　石狩市　「自転車活用推進計画の取組みについて」

３．視察者

（会長）　横田　実　（幹事長）　松村　祐樹
・比留間　利蔵　・　佐藤　新悟　・　増山あすか
・秋山　としゆき　・　大室　はじめ　・　宮田　よしひと

４．視察内容詳細について

別紙の通りとなります。

A. 北海道　旭川市　「地域歩行空間等整備事業費について」

視察日　　１０月１１日（水）

視察時間　１４時３０分～１６時００分

視察場所　旭川市役所内の会議室にて説明

説明員　・旭川市議会事務局次長　議会総務課長　宮川眞二　様
　　・旭川市議会事務局議会総務課　課長補佐　飛田憲一　様
　　・土木部　土木総務課　主幹　和田光矢　様
　　・土木部　土木総務課　計画係　主査　岡田康秀　様
　　・土木部　土木建設課　主幹　寺門　寛紀　様

出席者　横田実、松村祐樹、比留間利蔵、佐藤新悟、増山あすか、
　　秋山としゆき、大室はじめ、宮田よしひと

① 旭川市より市の紹介

旭川市は札幌に次ぐ２番目の人口を有している。古くからアイヌ文化があり明治頃には鉄道等が栄え発展し始めてきた。自然豊かな土地柄で盆地地帯が多く、夏は暑くて冬は寒いのが特徴的である。現在においても四季は、はっきりしている。特に過去最低気温－４１℃を記録しており、冬には除雪費などの経費が一般財源で必要になっている。

② 府中市議会市政会横田会長より挨拶

市政会の会派視察に快く受け入れていただきありがとうございます。府中市は東京の中心辺りに位置し、昭和２９年に１町２村が合併し現在に至っている。合併当時においては人口が５万人ぐらいであったが、現在では２６万人ぐらいの人口を有している。JRA 競馬場、鎮座１９００年を誇る大国魂神社があり暗闇祭りが有名である。

われわれの市議会としては３０名定員であり、私たちは８名の会派である。

本日は、府中市の地域間で様ざまな課題がある中で旭川市の取組みを参考にさせていただきたい。

③ 事業内容の説明

冒頭に避難経路となる道路整備に至った経緯について説明があった。改めて旭川市の概要や地理的な説明を受けた。特に特徴的な事は、平成２８年８月に３個の台風が発生し辺別川や空知川などが氾濫した。また、平成３０年７月にも豪雨の発生により市街地の冠水等の被害を受けている。更には、平成３０年９月においては北海道胆振東部地震により大規模なブラックアウトなども発生している。そのような中、都市防災総合推進事業を活用した整備対象施設の検討を始め、市で管理している市道（生活道路等）を対象にして事業を進めてきた。また、令和元年より災害弱者が安全に利用できるようにバリアフリー化や避難所などへ向かう路線を抽出し整備をしている。計画策定時と現在の社会情勢が変化し、労務単価などにも影響しており財源の確保についても注視することが必要である。事業評価については今後検証していく旨の説明を受ける。

④ 主な質疑応答

Q.実際に災害が起きた時の避難行動要支援者名簿を活用した災害支援を詳しく教えて頂きたい。
A.地域に名簿提供する事の一例として、まちづくり推進協議会の防災コミュニティ事業で地区の町内会役員さんやコミュニティの方と連携し避難訓練のときに支援者になりうる方、地域には要配慮者利用施設があるので名簿資料を提供し連携を図っている。

Q.歩行空間整備事業の取組みを進めている中で、府中市では移動等円滑化促進を進めているが、旭川市の方でその取組みについて今後の展望等の考えがあるのか。
A.旭川駅周辺の地区をバリアフリー化促進地区としてエリアを指定しながら特化して進める計画がある。そのエリア内には障碍者利用施設、保育園もあり小さい児童も移動する経路も使われている実態がある。

Q.面積が広いので立地適正化の策定、優先整備路線のリンクについて考えがあれば教えてほしい。
A.地区要件を絞って路線の事業展開をしている。計画策定時には路線を選んでいたが、実際ある施設が市の考えている整備路線と一致していないところがあった。選定要件に立地適正化も検討の材料としては使用している。

Q.異常気象の中で旭川市、道、国との連携や対応について教えて頂きたい。
A.河川について国は市街地に水が行かないように門を下げる。その際に市の方では、排水ポンプ車で川に水を放流している。地形によっては、水が農地から川へ流れている状況もある。
北海道としては、止水対応はしている。重要ポイントを選定して、緊急要望書などを持っていき要望している箇所もある。

⑤ 視察に当たっての所感

近年の激甚化する災害によって、あらゆる被害が拡大していると感じている。そのような中、旭川市においては、甚大な自然災害の被害を受け、避難所までの経路整備を計画的に進めながら市民の安全確保に努めていることが分かった。本市と比較してみると、多摩川の河川を有する等、地理的にも似ている箇所があるため参考になった。更に、災害弱者に対して円滑に避難できるように経路をバリアフリー化しているが、主に要配慮者の施設に関わるよう生活道路の整備をしている事が把握できた。災害弱者等への避難経路の確保や対応についても先進的な事例を確認でき、改めて、本市の避難経路の空間整備や現状の課題について考える事等、意義ある視察内容であった。

旭川市役所視察　令和５年　１０月１１日（水）

B. 北海道　砂川市　「スイートロードと商工振興の取組みについて」

視察日　　１０月１２日（木）

視察時間　１４時００分～１５時３０分

視察内容　砂川市役所内の会議室にて説明

説明員　　・（挨拶）多比良和伸議長
　　・砂川市議会事務局　局長　為國修一　様
　　・砂川市議会事務局　次長　安武浩美　様
　　・砂川市議会事務局　主幹兼議事係長　斉藤亜希子　様
　　・砂川市経済部　商工労働観光課　砂川市土地開発公社業務課　課長　奥山雅喜　様

出席者　横田実、松村祐樹、比留間利蔵、佐藤新悟、増山あすか
　　秋山としゆき、大室はじめ、宮田よしひと

① 多比良議長より歓迎のご挨拶

本日はスイートロードを含めた商工振興についての視察との事です。砂川市は、石炭を使った城下町であり炭鉱で一時期栄えていた。石炭からエネルギーが変化し衰退傾向である。炭鉱外では、お菓子が甘味処であり人口の割には、お菓子屋が多いことが特徴である。砂川市は車社会の中、歩きの買い物客が減っているのが課題である。令和７年に中心部で商業施設を建設し、１つの起爆剤として魅力あるまちづくりにしていき広域的に発展させていきたい。同時に民間活力も期待している。

② 府中市議会市政会横田会長よりご挨拶

本日は、お忙しい中にも関わらず視察の受け入れありがとうございます。東京都は２３区と多摩２６市３町１村であり、その中の１市が府中である。有名なのは東京競馬場や古くは武蔵国の国府が置かれたまちである。また、市役所の隣には、1900 年大国魂神社等がある。市としてはスポーツタウンとして掲げラグビーチームのサントリーや東芝等ある。市議会は 30 名の構成で私たちは８名の会派である。本日、私たちは商工振興について見識を広め府中市の今後の取組みについて参考にさせて頂きたい。

③ 事業内容の説明

改めて市の概要の説明を受ける。大企業の縮小化等があり、人口減少の傾向となる。本年９月末の人口は１５，６１５人で高齢化率４０．２％となる。近年ではお菓子のまちとして認知度が高まっている。また、地域医療の核となる市立病院も有している。エネルギー革命の影響を受け砂川市を元気にする３つの取組みについて説明あり。

１）平成１４年から取り組んでいる地域資源に着目したスイートロードが始まった。市内の各団体が手を組みお菓子を中心に取り組みが始まった。主な事業としては、読み聞かせとスイーツづくり、七夕やハロウィンとスイーツの融合、一口サイズのスイーツ試食会やスタンプラリーなどPRを含め事業の展開をしている。

２）平成２５年からまちなか集客施設「ＳＵＢＡＣＯ」の設立。地域おこし協力隊が商店街活性化、観光振興に向けて取り組んでいる。内容としては、商店街の情報発信や商店街を回ってもらう事業の実施、地域ブランドプロジェクト等に努めている。令和７年には駅前に「ＳＵＢＡＣＯ」を移転する計画である。商業者の情報発信や展示会イベントの開催をしていく。主に、まちなかの回遊につながる効果を期待している。

３）人口減少に対応するため令和元年から取り組んでいる地域ブランド「オアリパ」の取組み。周辺の地域の人口も減少している、市内がほとんど中小企業である。異業種がひと塊になって稼ぐ力で地域を元気にするプロジェクトを結成している。地域資源を集中して情報発信しながら覚悟をもって取り組んでいる。

④ 主な質疑応答

Q.コロナ前はハロウィンや読み聞かせ事業等をしているが、コロナ禍で現状はどうなっているのか。

A. 現在は事業の再開が出来ていない。デジタルを活用して違った形で取組んでいる。スイートロード協議会も事業内容の見直しをしていきたいと希望している。

Q.まちの活性化に向けて、商業重点エリアは駅前周辺なのか、市内全域なのか。

A. 中心市街地の商業地域や近商地域が重点的と考えているが、人口自体が減っている。市としては中心市街地の活力を考えているので商店街の誘致や誘客を図りたい。ただ、商業活動を行うにあたっては他の地域でも支援していきたい。

Q.令和７年に駅前へ建物を造る予定との事だが商業施設を作るのか、活動拠点を作るのか。

A. 各商店に回っていただく施設になる。イベントを行ったり、作品の展示などが出来るようになったり、カフェを置く予定である。地域住民が集まる事や市外の方々との交流が出来る場所にしたい。

Q.令和７年に駅前の動きが出てくるがターゲットについて教えてほしい。

A.砂川市では約８，０００人の方が就労している。多方面から砂川市に来ていただいている現状がある。理由としては市立病院の存在が大きいと把握している。特急電車も止まり乗降者も見受けられるので駅を活用している方や車で来る方も大事にする視点の施設にしたい。

Q.観光については車と電車がターゲットになるのか。海外の方についての考えは。

A.インバウンドもターゲットにしたいが、先ずは、道内の方々に魅力を発信していきたい。

Q. 市内の大企業が市に対して、どのように貢献しているのか。事例はあるのか。

A. 市内では工場のリニューアルをして観光客が来ていただける環境整備はして頂いた。

また、様ざまな企業がまちづくりに協力的であり、その他にも協賛などの協力を頂いている。

⑤ 視察に当たっての所感

時代の変化によって、市内にある民間会社が衰退傾向になる中で、特に砂川市の例のような労働者の減少についての影響は計り知れないと感じました。また、砂川市のように今後の人口減少が見込まれる状況での市内への企業誘致や集客に向けた取り組みが参考になった。説明を受けて、現在の府中市も市内には大企業等があり、労働者の方々を含め、府中市に訪れてくれる方々も多くいるが、中心市街地をどのように回遊して頂くか今後の事業展開が重要であると実感しました。府中市においても、都市間競争が激しい中、中心市街地だけでなく各地域への支援をしている砂川市のケースも参考となる事業説明であった。

砂川市役所　　令和５年１０月１２日（木）

C.　北海道　石狩市　自転車活用推進計画の取組みについて

視察日　　１０月１３日（金）

視察時間　１０時３０分～１２時００分

視察内容　石狩市役所内の会議室にて事業説明

説明員　・（挨拶）花田和彦議長
　　・石狩市議会事務局　次長　高井史朗　様
　　・石狩市企画経済部　企画課交通担当　江畠紀和　様

出席者　横田実、松村祐樹、比留間利蔵、佐藤新悟、増山あすか
　　秋山としゆき、大室はじめ、宮田よしひと

① 花田議長より歓迎のご挨拶

石狩市は、古くからサケ漁で栄えた。昭和４０年～５０年代にかけ水質の悪化によりサケ漁が激減した。その後、水質改善や公害改善があって現在では、回復傾向である。今では工業団地としても栄えてきた。再生可能エネルギーを使った太陽光発電や木質バイオマス発電で去年には、環境省脱炭素先行地域として選定されている。また、観光先進都市として取り組んでいる。本日は、自転車活用推進に関わる視察と聞いているので、皆さんにとって実り多い視察になる事を祈念しています。

② 府中市議会市政会横田会長よりご挨拶

本日は、忙しいところ我々の視察を受け入れありがとうございます。府中市は、東京都２３区の新宿から私鉄で２５分程度のところに位置しております。有名なのは東京競馬場や古くは大化の改新後に国府が置かれたまちということである。１９００年の歴史を誇る大国魂神社等があり、お祭りなどが開催されている。本市は、自転車については、２０２０東京オリンピック時に自転車ロードレースが大国魂神社の参道等を通ったりしている。そのような中で、自転車の活用に向けて見識を広め今後の取組みの参考にさせて頂きたい。

③ 事業内容の説明

石狩市の概要についてご説明をいただいた。人口については本年９月末時点で５７，７６０人となっている。また、手話の基本条例等も取り組んでいる。今回の自転車活用推進計画について、石狩市はサイクリング環境整備を強化していく事の方針が示されている。環境負荷の軽減や健康増進などの効果を期待されている。道路整備については、前半５年間で郊外部の方を整備し、後半５年間で市街地の整備に取り組んでいく。道路標示や案内看板などをつけ前半の５年間でノウハウを培っている。その後に市街地への整備に取り組む予定である。また、サイクルルートマップ等を作成し、サイクリングの促進に図り、プロモーションビデオを作成し様々な場面で活用している。更には、レンタサイクルの実施や市内大学生による共同企画も行いモデルツアーの取組みの実施もしている。現状では、親子の参加も見受けられている。この事業の達成状況については、上記に記載している事や交通安全教育、自転車通行空間の整備等多くの実績を有している。

④ 主な質疑応答

Q.事業を始めてから、実際の推移についてどのように捉えているのか。
A.サイクルツーリズムとしては、どの市町村も数字としては出せていない現状である。カウント方法が確立されていない。国にも要望しているが、国道などで推移をカウントして頂きたいとお願いしていくしかない。道路改良などを行いカウント出来るようにすると財政面の課題がある。

Q.冬は雪や凍結などがあると思うがどのような対策を行っているのか。また、ツアー以外の方の利用状況はどうなっているのか。
A.冬はコアな方しか乗らない。補修などは、ツアー以外は除雪対応をしていない。春頃は道路の関係部署にお願いして対策している。ツアー以外は１１月頃から乗らなくなると感じている。

Q.マップにあるルートに関しては日帰りコースなのか？宿泊などの対応はあるのか。
A.基本的には日帰りを想定している。自転車に乗る人は１時間で平均２０ｋｍ走っている。
基本的に札幌に泊まることが多い、石狩市では宿泊施設が少ないのが課題である。

Q.府中市だと「風の道」があるが、市をまたぐと通行区分のルールが違ったりする。
その辺りの工夫などあったのか。
A.始めた時には北海道と開発局が協力して統一したルールが示された。

Q.安全対策している中で事故に対しての成果について教えてほしい
A.思想として、国道や道道を走ることは極力避けるようにしている。車側の安全意識向上についても挙げることが必要である。

Q.計画内にある災害時の自転車活用について教えてほしい。
A.災害時に車で行けない時の利用やガソリン不足になった際などのために２台用意している。

⑤ 視察に当たっての所感

本市と石狩市ではサイクリングが出来る環境の条件は大きく違っていると感じている。しかしながら、本市においても、多摩川のサイクリングロードや市内等を走ったオリンピックのロードレースの実績等もある中において、参考になったところがあった。特に、自転車利用者の視点から案内看板の設置や路面標示の取り組み等々、目で見て分かるような注意喚起やコース誘導など、引き続き先進事例を注視しなければならないと感じた。国際的に発展してきているロードレース競技のレガシーを大事にする本市としては今後も自転車の活用に向けて推進していく事が重要であると考えている。
ハード事業の道路整備はもとより、観光的なプロモーションや安全対策、講習など多くのソフト事業の推進も含め自転車を活用した事業展開に期待するとともに先進事例を確認できた視察であった。

石狩市役所　　令和５年１０月１３日（金）